

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

平成28年11月号 No.114

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

第51回全国木材産業振興大会開催

木材の復権
～ ウッドファースト社会の実現に向けて～

平成28年11月10日(木)(一社)全国木材組合連合会、全国木材協同組合連合会の主催により、(一社)全国木材組合連合会北陸支部が大会担当として、富山市「富山県民会館」にて来賓、会員等約750余名の出席を得て開催された。

大会第1部大会議事において吉条全木連会長の挨拶の後、来賓の祝辞があり、大会宣言決議(下記)が発表され、満場一致で決議された。

引き続き第2部では記念講演として、松竹株式会社 映画監督本木克英氏による「映画を通して富山を観る」の演題で講演会が行われた。

その後第3部では、表彰式が行われ、本県からは林野庁長官賞に服部伸一名古屋木材組合副組合長を始め、7名が受賞された。(下記受賞者名簿のとおり)その後、多数のご来賓のご出席の下、懇親会が盛況に開催された。



1. 大会受賞者(本県分)

林野庁長官賞	服部伸一	名古屋木材組合副組合長
全木連会長賞	寺澤伸和	江南木材組合組合長
	山脇善典	豊川木材組合副組合長
	天野昭浩	豊田木材組合組合長
	真野穰司	名古屋木材組合理事
全木協連会長賞	斎藤太志	愛知県木材買方協同組合副理事長
	佐々木宏和	奥三河木材協同組合副代表理事

記

2. 大会宣言

木材の利用は、地球温暖化防止や森林・林業の活性化を通じた森林の多面的機能の発揮、地域経済の活性化などに伴い、豊かな暮らし・低炭素社会の実現など国民の安全安心に直結するものである。木材に対する関心は高まってきており、公共建築物、住宅建設はもとより、中高層建築物、非住宅分野などへの木材利用が進んでいる。我々は、木材を優先して活用する“ウッドファースト社会”の実現に向けて、行政をはじめ関係者との連携に積極的に取り組んで来ており、その成果が着実に浸透しつつある。

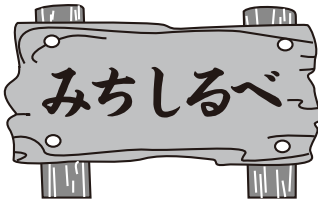
今後とも、戦後続いてきた木材から非木材への流れを変え、木材の復権を確実なものにするために、安全安心に木材の安定供給体制の構築とともに、これまであまり木材の活用がなされて来なかった分野での木材利用を拡大していくための制度創設など、時代の求める課題を認識し、広く消費者・ユーザーにも理解と支援が得られる取組を木材産業界自ら率先して展開していくことが重要である。

そのために、次の事項について経済界な多様な関係者の連携の下に英知を結集して行動する。

1. 木材利用の大幅な拡大を実現するため、森林・林業・木材産業関係者が一体となって法律、制度の見直しを含めた木材利用拡大運動を進める
1. 新たな木材需要拡大への支援対策・予算の実現と拡充に取り組む
1. 中高層建築物、商業施設等あらゆる分野に木材利用を創出するための技術開発・普及等の取組みを進める
1. 東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用を拡大する
1. 生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材防疫の適正推進、A材の利用拡大、木質バイオマスの利用等に取り組む
1. 合法木材・木材製品、J A S製品、乾燥材など、安全安心で品質・性能の確かな木材の供給や人材の育成確保に取り組む

平成28年11月10日
第51回全国木材産業振興大会

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを



父

名古屋港木材産業協同組合
理事長 嶺 木 昌 行

私の父は大正5年の生まれである。大正5年とは西暦で言えば1916年。今からちょうど100年前のことになる。即ち、父は本年6月に満100歳を迎えたのである。大正5年には人力車が走っていたようであり、大都会はともかく多くの地域では電燈よりランプの時代であったようである。

父は戦後、昭和23年に新堀川沿いで木材業をスタートさせた。32歳の時である。北海道材から始まり、国産針葉樹・製材業・製箱業・造船納材へと事業を次々変化させていった。あまり儲からなかったことが理由らしい。その度に本社事務所や住居を移住し、新堀川・堀川（中区正木町）・熱田区幣懸町・白鳥と、家族も引っ越しを余儀なくされた。

転機は昭和30年代後半、米材丸太を取り扱うようになってからである。安宅産業・丸紅といった大手商社と取引が開始され、折からの外材ブームにも乗って当社の業容は急速に拡大し、父も当時各地区・各業界に多く輩出した立志伝中の一人となった。当時の当地区の経営者の方々、上地武氏・桐山富治氏・鈴木正治氏・服部栄三氏らと比較して、父の特異な点は2つあった。第一は、名古屋木材組合、米材協議会をはじめとした木材業界に殆ど顔を出さなかったことである。シャイな性格が父を臆病にさせた理由と思うが、その為業界の会合では私が父の代わりに上地武氏らと並ばされることとなった。（後で気付いたことであるが、このことは私を早くから生意気にさせるとともに、偉大な方々から多くのことを学ばされた結果となっている。）第二は、事業が絶えず進取に富んでいて、その範囲が木材業界に留まらなかったことである。木材はもちろんのこと、新建材・アルミサッシ販売・アルミサッシの窓枠製造・東新町でのレジャービル経営・志摩地区や高山地区での別荘地開発・損害保険・そしてマンション分譲・マンション管理etc. ひと言で言えば、儲かりそうなもので父の着手可能なものは殆ど手をつけたと言っていい。父は「多角化」と言い、「住宅総合商社」と名付けていた。

中国の「貞観政要」に「およそ馬上天下を得るも馬上天下を治るにあたわず」という有名な一節がある。軍事力で天下を取れたとしても、軍事力で天下（世の中）を治めることはできないという意味であるが、これを今風に解釈すれば、天下取り（創業）と天下治め（事業の継承）とは全く違うということであろう。

私は昭和59年40歳の時二代目社長として父の事業を継承した。それから社長在任24年間、会長在任8年間を通じて、現在当社および当グループに残っている事業は木材事業・マンション分譲・マンション管理・保険事業、そして新たに追加された賃貸事業・分譲住宅事業の6つである。新建材・アルミサッシ・その他は全て廃業していった。

父はこの10月、満100歳と4か月余りで死去した。昭和59年、私が40歳で二代目社長になった時、父は68歳であった。それから32年間、父は会長・名誉会長という立場であったが、私の経営に口を出すことはなかった。私は40歳で社長になるまでは父からガミガミ言われ続けてきたが、社長になってからは何も言われることはなくなり、父は一切を私に任せてきた。そんな父であるが、会社が好きなのか会社のことが気になるのか、昨年の暮れまでは毎日ネクタイを締めて会社に出てきていた。出金伝票など量が多すぎて私が判を押してもしめない帳票類にも丁寧に捺印していたようである。

父の長生きの秘訣を以前に聞いたことがある。会社（当社）から毎月月給を貰っていることだと淡々と答えていた。私の想像であるが、自分が社会から必要とされていると感じること。その為に私のやらない（横着な）部分を陰ながら補佐しようとする生活。それらを毎日きちんと繰り返すことが生きるリズムとなって、もともと持ち合わせていた頑健な体力と相まって、100歳まで生きることが出来たのではないかと思う。父は本年1月から入社しなくなり、それでも自宅でのんびり過ごしていたが、5月に腰の骨を折り車椅子の人となった。6月には体調を崩し入院することとなったが、やがて点滴のみの栄養補給となり、少しずつ衰弱していった。

父は財産を残し、事業を残し、そして人を残した経営者である。我田引水と思うが、名経営者の一人と言ってよいと思う。1年後に私の長男一志が次期社長になることを含め、当社の「昭和」は今終わった。合掌。

◆ 合縁木縁 ◆

「特定非営利活動法人『緑の挑戦者』」

木材の仕事に携って三十余年が経過しました。もともと木材専門輸入商社で仕事をしていた私の所属は、米材針葉樹材部で約二ヶ月現地で買い付け、検品、それを日本にて約一ヶ月で販売、'91～'94は現地カナダの工場に駐在して品質と出荷の管理業務を行っていました。カスタムカットでは樹齢500年を超える、米松ピーラー、スプルース、ノーブルファーの製材を行い、工場の駐在時代は同じく米材を原木材積ベースで毎日約300m³、月に約6,000m³の製材を行っていました。当時のアメリカはクリントン大統領時代のゴア副大統領による自然保護政策により、アメリカ西海岸の一次林の原木の伐採の殆どが出来なくなり日本の木材事情にも打撃を与えました。直接携っていた私自身も、500年以上の原木をこの世に数十年しか生きていない人間が切り刻んでよいものか？とよく考えたものでした。ある時、愛知用水の建設に関わった団体に関係のある友人から、「愛知用水の『水』を守るためにその源である木曾川流域の『森』の整備を行う『緑の挑戦者』というNPOを立ち上げたので手伝ってもらえないか？」との依頼がありました。少なからず「森」を破壊してきた人間の一人として、「森」に恩返しの意味と感謝をこめて活動に参加させてもらいました。平成12年より春秋あわせて年3～4回、王滝地区、木祖村木曾町の主に公有林に入り間伐、除伐、害獣防止策、枝打ち等の活動を行っています。当初はボランティアの一人として参加していましたが、昨年より監事というポジションで幹部として活動しています。私は木材を生活の糧として生きて来た人間として、この活動を今後のライフワークとして一生続けていくつもりです。

「森」に感謝！「水」に感謝！

今回は、(株)東海木材相互市場 西部市場
営業課 加藤祐介氏にお願いします。

名古屋：セントラルウッド(株)

管理リーダー 吉田 司

木場すずめ

『植物界の競争』

ようやく暑さも落ち着き、朝晩は少し秋の気配を感じるようになりました。こんな頃、車で田舎道や山あいを走っていたりすると、ふとした時に秋の草花が目飛び込んできます。銀色に輝くすすきの穂や、真っ赤に咲く彼岸花など。小さい頃に近所の堤防で遊んでいた時の記憶の中の風景が思い出され、季節感も相まって、何となくセンチメンタルな気持ちになります。

その秋の草花に、数年前からでしょうか、黄色い花が目立つようになってきました。セイタカアワダチソウです。茎の直径は1～2cm程ですが、その名の通りに背は高く、2m以上のものも見られ、群生するのでよく目立ちます。少し調べてみると、昔から日本にあった種ではなく北米産の外来種で、観賞用として昭和40年代に持ち込まれ、強い繁殖力で広がったようです。土中の栄養分をたくさん吸い上げ背を伸ばし、根からは他の植物の成長を抑制する化学物質を出すことで、その生息範囲をどんどん広げ、在来種の生息域を奪っていきました。空き地一面が黄色い花で埋め尽くされるという風景も見た覚えがあります。

しかし、現在はセイタカアワダチソウの拡大勢力が失われつつあります。理由は、自分で土中の栄養分を吸い過ぎて土地が痩せてしまった、増えすぎてしまったために自らが出す成長を抑制する化学物質に自らの成長が抑制されてしまった、これらが大きな理由のようです。今では逆にススキが盛り返し、かつて奪われた勢力圏をひっくり返しているとか。植物界でもし烈な競争が広げられていることを知りました。

人間界（我々の業界）も、自らの首を絞めるような不利益な競争はせず、互いの更なる発展のために知恵を出し合い共に切磋琢磨していく、そんな競争をしたいものです。特に住宅業界では人口減に伴う着工数の減少など、非常に大きい問題を抱えています。これから直面していく更に厳しい時代を見据えて、今から行動していきたいと思えます。

せぶ 広報委員：秦野健二（服部産業(株)）

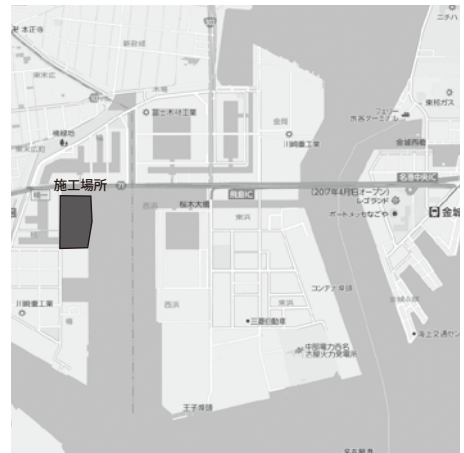
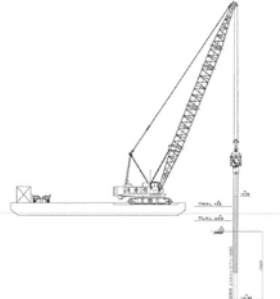
弥富ふ頭第1貯木場北側整備工事のお知らせ

平成28年11月中旬より第1貯木場北側において既設けい留施設の撤去工事が行われますので承知おきください。工事期間は、平成29年3月24日の予定です。

工事内容：けい留杭撤去本数 176本
地骨撤去基数 49基

発注者：名古屋港管理組合港湾工事事務所
電話／052-384-6014

現場責任者：(株)小島組
電話／052-691-7070



☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

自動車盗難が急増

今月に入り、蟹江警察署管内において、トラックや貨物自動車の盗難被害が多発しています。

【防犯上の注意点】

- ・わずかな時間でも離れる際は必ず施錠してください！
- ・ハンドルロック、タイヤロック、シフト固定装置等の防犯器具の活用を！

◆ 広告コーナー

私たちのプレカットテクノロジーは、
人と住宅の未来のために
磨かれています。

Precut & Technology
MIYAGAWA®

宮川工機株式会社

本社 〒441-8019 愛知県豊橋市花田町字中ノ坪53
TEL.(0532)31-1251(代) FAX.(0532)34-1956

東京営業所(本事業所はISO9001:2000認証取得の組織ではありません)

〒135-0016 東京都江東区東陽5丁目15の6
TEL.(03)3647-2140(代) FAX.(03)3647-2184

●資料ご希望の方は、宮川工機(株)営業部まで



「プレカット」と「木工機械」の
平安コーポレーション

〒431-2103 静岡県浜松市北区新都田1-5-2

発行 名古屋木材組合
発行者 西垣洋一
〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10
TEL <052> 331-9386
FAX <052> 322-3376
【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合
発行者 嶺木昌行
〒490-1444 海部郡飛鳥村木場1-74
TEL <0567> 57-2017
FAX <0567> 57-2018
【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会